

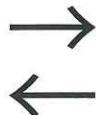
酒蔵・米蔵の移築再生 サガ電子工業新工場



本当のエコとは何かということを課題として、設計、施工しました。現在環境問題について多くの企業に取り組んでいます。エコ家電は、運転中は省エネですが、製造過程においては多くのエネルギーを使います。また、原子力発電に代表されるように廃棄する場合にも多くのエネルギーを使用します。現在、建築中の多くの建築物について、数多くの建築材料が工場生産され、生産するためのエネルギー、輸送するためのエネルギーを消費しています。それと共に、解体する時にも土に返る素材はほとんど使用していないのが現状で、何らかの廃棄するための処理をしないといけません。私達は未来の人々に多くの負の遺産を残しているのではないのでしょうか。この工場は環境問題に真剣に取り組んでおられるサガ電子工業の小柳社長と共に環境のことに考慮しながらつくりあげた建物です。解体予定の武雄市の酒蔵と西有田町の米蔵を移築して工場を建築することにしました。移築にあたり、できるだけ再利用できるものは再利用していく事にしました。古瓦は4棟で1万枚ほどありましたが、小柳社長の努力により、すべての敷地内の外構に再利用しています。木材については構造に問題がない木材は再利用しています。竹小舞の竹もしっかりした竹は再利用しています。土壁は、本来の蔵造りの土壁で施工していますが、壁土も古いものと新しいものを半分ずつ混ぜ合わせ再利用しています。このように、できるだけ古いものを再利用しています。解体から完成まで多くの人の力を要しましたが、そのほとんどが県内の職人達で地域の雇用にも貢献できたのではないかと考えます。今回、移築工事に従事して、伝統的構法は解体時、建築中、将来の解体時の廃棄物処理と現在から未来への環境問題に大きく貢献できると再確認しました。完成後はできるだけ化石燃料を消費しない運営に取り組んでおられます。昨夏の近年にない猛暑も水クーラーや窓の断熱等、創意工夫され、少ない電力消費で乗り越られました。今冬も薪ストーブと水クーラーで電力消費を少なくされ、2月に限れば前年度の電力消費量の約4割削減されました。このように、100年前の人々が残してくれた建築と自然素材を利用する技術は、環境に負担をかけないものだと強く感じました。先人達の想いと技術を次の世代にどのように伝えていけるかがこれから私たちの課題です。



移築・再生



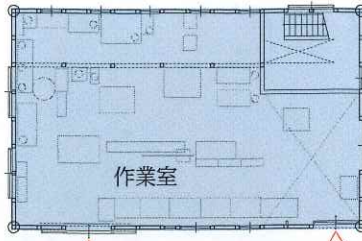
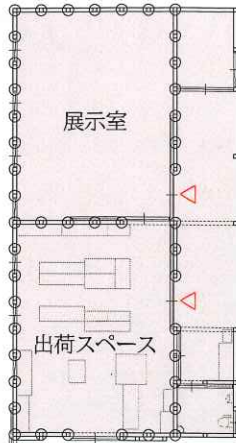
解体



自然素材

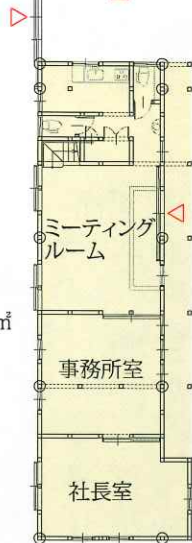
第Ⅰ棟(出荷棟)

- 西有田・庄屋の米蔵を移築
 - 約築80年
 - 面積154.03㎡
- 移築前



第Ⅲ棟(作業場)

- 武雄・酒造会社の酒蔵を移築
 - 築100年を超える
 - 面積280.93㎡
- 移築前



第Ⅰ棟(事務所棟)

- 西有田・庄屋の納屋を移築
 - 約築80年
 - 面積1F:93.61㎡ 2F:69.10㎡
- 移築前



第Ⅱ棟(作業場)

- 武雄・酒造会社の酒蔵を移築
 - 築100年を超える
 - 面積117.61㎡
- 移築前



移築前



移築前



移築前



第Ⅰ棟(出荷棟)展示室



第Ⅱ棟(作業場)作業所



第Ⅲ棟(作業場)作業所

